

業績のご報告

当第2四半期連結累計期間の業績概要

当上半期における内外経済は、緩やかな回復傾向が継続しているものの、欧州諸国の財政問題に端を発する景気減速懸念を払拭するには至らず、依然として予断を許さない状況で推移しました。

この環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、事業統合による子会社の連結除外[※]に伴う影響により、

■ 主要財務指標（連結）

| 科目 | 第2四半期連結累計期間 | | |
|-----------------------|-------------|----------|---------|
| | 2010年度 | 2009年度 | 2008年度 |
| 経営成績 | | | |
| 売上高（百万円） | 176,361 | 197,298 | 272,398 |
| 営業利益（百万円） | 5,272 | △ 14,913 | 18,211 |
| 経常利益（百万円） | 5,069 | △ 12,929 | 17,665 |
| 四半期純利益（百万円） | 2,558 | △ 10,891 | 9,722 |
| 1株当たり四半期純利益（円） | 9.32 | △ 39.26 | 35.18 |
| 財政状態 | | | |
| 総資産（百万円） | 376,312 | 409,808 | 484,088 |
| 純資産（百万円） | 149,533 | 164,865 | 231,355 |
| 1株当たり純資産（円） | 555.73 | 608.00 | 804.78 |
| その他 | | | |
| 設備投資額（百万円） | 3,137 | 5,378 | 6,971 |
| 減価償却費（百万円） | 3,715 | 5,759 | 6,506 |

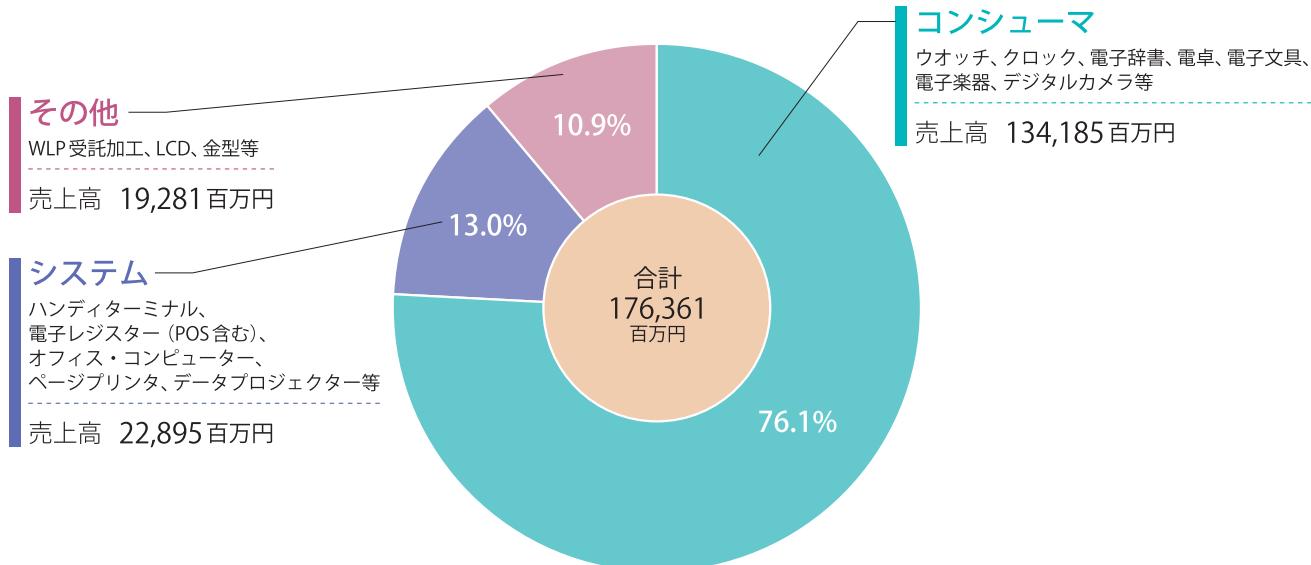
対前年同期比 10.6% 減の 1,763 億円となりました。セグメント別について見ますと、コンシューマは 1,341 億円となりました。デジタルカメラは新製品 8 機種を投入し、欧州や中国を中心に展開しました。時計は「G-SHOCK」や「EDIFICE」といったブランドが北米やアジアを中心とした海外で好調に推移しました。また、電子辞書は引き続き国内で圧倒的なトップシェアを確保し、中国でも売上規模を拡大しました。システムは 228 億円、その他は 192 億円となりました。

損益につきましては、コンシューマは 75 億円の営業利益となりました。時計や電子辞書は引き続き高収益性を維持しました。システムは 7 億円の営業損失、その他は 3 億円の営業利益となりました。この結果、調整後の連結合計として 52 億円の営業利益となりました。また、経常利益は 50 億円、四半期純利益は 25 億円となりました。

※携帯電話事業の日本電気株式会社、株式会社日立製作所との事業統合に伴い、株式会社カシオ日立モバイルコミュニケーションズ（連結子会社）は、平成 22 年 6 月に NEC カシオモバイルコミュニケーションズ株式会社に吸収合併し、同社が持分法適用関連会社となりました。TFT 液晶事業の凸版印刷株式会社との事業統合に伴い、同事業を承継した株式会社オルタステクノロジー（連結子会社）は平成 22 年 4 月に持分法適用関連会社となり、高知カシオ株式会社（連結子会社）は関係会社ではなくなりました。

■ 売上高のセグメント別構成比

2010年度より、セグメントが変更になりました。



通期の業績見通し

現時点での平成23年3月期の連結業績予想につきましては、前回予想（平成22年5月12日公表）に対して変更はありません。

当グループは今後も全世界で通用する独自技術を活かした新製品の積極的な世界展開により、長期的視点に立った収益力強化、経営・財務体质強化に取り組みます。

■ 2010年度業績見通し（連結）

| | | |
|-------|---------|--------------|
| 売上高 | 3,750億円 | (前期比 △12.4%) |
| 営業利益 | 150億円 | (前期比 —) |
| 経常利益 | 130億円 | (前期比 —) |
| 当期純利益 | 70億円 | (前期比 —) |